

在外韓人学会 レポート

「神戸地域の歴史と在日コリアン」

飛田雄一 hida@ksyc.jp

(神戸学生青年センター、在日朝鮮人史運動史研究会関西西部会、むくげの会)

●はじめに

1986年の神戸港(兵庫津)の開港以降、神戸市は発展してきた。「国際都市」と言われることもある。神戸市の外国人は、2024年7月末現在、57,315名、そのうち韓国・朝鮮人が14,541名(25.4%)でトップである。2位は中国人の14,013名(24.4%)、3位はベトナム人8,436名(15.1%)と続く(住民基本台帳による)。神戸市の人口は外国人をあわせて1,493,675名である。

近代以降の神戸の発展に外国人の役割は大きく、コリアンとの結びつきも強い。アジア・太平洋戦争の時期に、川崎、三菱などの軍事工場に強制連行されたコリアンもいる。

本稿では、神戸のコリアンについて記述してみたいと思う。幸い神戸地域では、コリアンの歴史についての調査研究活動が、兵庫朝鮮関係研究会¹、むくげの会²、兵庫県在日外国人教育研究協議会³などによって進められ、2001年には共同作業の成果として『兵庫のなかの朝鮮—歩いて知る朝鮮と日本の歴史』(明石書店)が出版されている。神戸市を含む兵庫県下の在日コリアンの歴史については、飛田が『人権歴史マップ』等を書いたものを集めた『兵庫のコリアン・朝鮮人・連合軍捕虜』ノート(1917年2月)]を作成している。⁴

●神戸電鉄敷設工事とコリアン労働者—1920年代、30年代

神戸電鉄は神戸有馬電鉄(1927~28年敷設)と三木電鉄(1936~37年敷設)が1947年に合併して設立された。1920年代、30年代の敷設工事には多くの朝鮮人が従事していた。その人数は1200名から1800名と推定されている。山間を走る路線では多くの事故が起こったが、新聞記事から確認される死亡事故は次の5件、死亡者は13名である。(文末資料1)

1927年8月1日、二名、山田村下谷上、竹藪切り工事中に土砂崩壊/1928年1月15日、二名、神戸市東山町四丁目東山トンネル東入口、夜間作業中/1928年5月7日、二名、山田村原野字奥谷、墜落した石の下敷/1928年10月23日、一名、烏原水源地奥、トロッコ同士衝突/1936年11月25日、六名、山田村藍那トンネル東入口、土砂崩壊。

東山トンネルの事故は深夜工事中に起こり落盤事故で2名の朝鮮人労働者が死亡した。藍那トンネル事故は11名が生き埋めとなりそのうち6名が死亡するという神戸電鉄敷設工事最大の事故であった。犠牲者のうち金鳳斗と金東桂は慶尚南道固城出身の親子であった。

神戸電鉄湊川駅の工事は後に埋め戻す工法で行われたが、1928年7月26日の大阪毎日新聞(神戸版)には「生くる悲哀/炎熱地獄に苦闘する鮮人(ママ)労働者の群がり」という記事とともに「炎天下に喘ぐ鮮人(ママ)労働者」という写真が掲載されている。また工事の過程で過酷な労働条件を反映して4回にわたって労働争議が起こっている。要求は「毎月一回の勘定支払」「飯場家賃の撤廃」などであるが、1927年に1200名の朝鮮人労働者が参加したストライキは戦前において全国的にも有数の労働争議であった。(文末資料2、毎日新聞2018年4月23日参照)

1992年に結成され「神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会」は、調査研究活動を進め、①『神戸電鉄敷設工事と朝鮮人労働者<資料集>』（1993.7）、②『鉄路にひびくアリランの唄―神戸電鉄敷設工事と朝鮮人―』（1996.11）を出している。

1996年、記念モニュメントとして「神戸電鉄敷設工事朝鮮人労働者の像」が作られ、毎年10月には追悼行事も開かれている。⁵

●神戸港におけるアジア・太平洋戦争下のコリアン強制労働

アジア・太平洋戦争の時期、三菱重工業神戸造船所、川崎重工神戸艦船工場などの軍需工場では、兵士として戦場に送られたあとの労働力不足を補うために、女性や中学生以上の学生・生徒も動員された。さらに1939年以降は、「朝鮮人労働者内地移住に関する件」という文書によって朝鮮人強制連行を開始した。1944年8月、徴用令によって咸鏡南道から強制連行された朴球會さんは、川崎重工神戸艦船工場で働かされたが、朴さんの証言によると、宿舍の東垂水寮には約3000名の朝鮮人が収容されており、省線（現JR）で塩屋駅から神戸駅まで行き、そこから工場まで徒歩で通ったという。潜水艦の伝言管製作の単純作業で、「空腹が一番苦痛だった」とも語っている。1990年に公表された「いわゆる朝鮮人徴用者等に関する名簿の調査について」（「厚生省名簿」）にはすべての企業の名簿ではないが、神戸関係では、三菱重工業神戸造船所1984人、川崎重工工業葺合工場1398人、神戸製鋼所本社工場413人、神戸船舶荷役株式会社148人などの名簿がある。

神戸港における戦時下朝鮮人・中国人強制連行を調査する会が、1999年に結成され、2008年7月に<神戸港 平和の碑>が完成させた。また、以下の本を出版している。⁶

- ・ 神戸港における戦時下朝鮮人・中国人強制連行を調査する会編『神戸港強制連行の記録―朝鮮人・中国人そして連合軍捕虜―』（明石書店、2004年1月）
- ・ 同会編・発行『アジア・太平洋戦争と神戸港―朝鮮人・中国人・連合軍捕虜―』（執筆・宮内陽子、みずのわ出版、2004年2月）

同会では、モニュメント完成後、毎年4月に追悼集会および学習会を開催している。

●その他、神戸のコリアン関連の施設等

神戸では比較的、共同作業としてのコリアン研究が進んでいると考えている。以下、これまでの文章でとりあげていない施設等について紹介する。今後もこの地域の在日コリアンの歴史を調査、研究して、地域全体の歴史研究を豊かにしていくように努力していきたい。

1) 一般社団法人コリア教育文化センター

「近年の日本社会における暴力的な差別排外主義の台頭は、背景にある政治経済社会状況とあわせ考えるとき、マイノリティーを脅かすきわめて危険で深刻な事態であると言わざるをえません。／このよ

うな中、私たちは、これまで神戸で活動してきた「コリア教育文化センター」と「神戸在日コリアン生活文化資料館(仮称)設立準備委員会」及び「長田在日大学」をひとつにし、2014年4月、神戸・新長田を拠点に新たに一般社団法人神戸コリア教育文化センターを設立する運びとなりました。」⁷ 同センターは、「神戸在日コリアンくらしとことばのミュージアム」開設のための活動も展開している。

2) 公益財団法人 神戸学生青年センター

1972年に作られたキリスト教を母体するセンターで、朝鮮史セミナー等を開催している。コリアン関係の多くの出版物も発行している。また強制動員真相究明ネットワークの事務局も同センターにある。⁸

3) 一般社団法人ひょうご部落解放・人権研究所

「ひょうご部落解放・人権研究所は、すべての人間は自由で平等であり、等しく人間としての尊厳をもっているという理念のもと、部落の完全解放をはじめ一切の差別撤廃を実現するため、部落問題と人権問題の歴史や文化、教育に関する調査研究並びに教育啓発活動を行い、部落問題と人権問題のすみやかな解決に寄与することを目的としています。」⁹

兵庫県下の全区域をカバーする『人権歴史マップ』を出版しており、「神戸・淡路<増補版>」にもコリアン関係の記事がある。¹⁰

4) 青丘文庫

在日朝鮮人の経済人であり学者であった故・韓哲曦が、私財によって1969年に設立された朝鮮史の専門図書館。図書は、1996年に神戸市立中央図書館に寄贈されて、1997年6月には、中央図書館の青丘文庫として再オープンした。在日コリアン関係の書籍も多数収集されている。在日朝鮮人史運動史研究会関西部会、朝鮮近現代史研究会が定期的に開催されている。「青丘文庫研究会月報」、同「メールニュース」が発行されている。在日朝鮮人史運動史研究会には関東部会と関西部会があり合同で『在日朝鮮人史研究』を毎年刊行している。¹¹

<資料1>

【死亡者名簿】(『神戸新聞』と『朝日新聞』より作成)

一、	1927年8月1日 二名 山田村下谷上 竹藪切り工事中に土砂崩壊 ① 韓啓文 42歳 ② 趙鳳珠 30歳
二、	1928年1月15日 二名 神戸市東山町四丁目東山トンネル東入口、夜間作業中 ◆③ 金相燮 26歳 慶尚北道栄川郡上里面古頃羽 ◆④ 黄範寿 31歳 慶尚南道蔚山郡農所面
三、	1928年5月7日 二名 山田村原野字奥谷 墜落した石の下敷 ⑤ 朴鍾述 27歳 ⑥ 金永得 26歳
四、	1928年10月23日 一名 烏原水源地奥 トロッコ同士衝突 ◆⑦ 姜太龍 26歳

五、	1936年11月25日	六名	山田村藍那トンネル東入口	土砂崩壊
	◆⑧	朴南槿	32歳	慶尚北道高靈郡雲水面黒樹里
	◆◆⑨	金鳳斗	47歳	慶尚南道固城郡下二面月興里
	◆◆⑩	金東桂	25歳	同上(⑩は父子)
	◆⑪	李命福	24歳	慶尚北道盈徳郡南亭面鳳田洞
	◆⑫	姜学守	36歳	
	◆⑬	陳南述	30歳	

(※註 ◆印は鶴越斎場の台帳で確認 ◇印は本籍地で確認)

<資料> 2



家並みや山を望む草地にひっそりとある「神戸電鉄敷設工事朝鮮人労働者の像」。斜面下を数分おきに電車が通る。

「神戸市兵庫区で」

事故死の13人を悼む

街ごと
撮ってまき

その人はつるはしを振り上げ、桜がおおかた散った4月半ば、神戸電鉄湊川駅と長田駅の間、車窓を流れる景色の中にほんの一瞬、見える姿。いつか近くまでと思いつつ、線路脇の擁壁の上から、もう何年だろう。草地にひっそりと、そのプロ

その人はつるはしを振り上げて、桜がおおかた散った4月半ば、神戸電鉄湊川駅と長田駅の間、車窓を流れる景色の中にほんの一瞬、見える姿。いつか近くまでと思いつつ、線路脇の擁壁の上から、もう何年だろう。草地にひっそりと、そのプロ

その人はつるはしを振り上げて、桜がおおかた散った4月半ば、神戸電鉄湊川駅と長田駅の間、車窓を流れる景色の中にほんの一瞬、見える姿。いつか近くまでと思いつつ、線路脇の擁壁の上から、もう何年だろう。草地にひっそりと、そのプロ

神戸電鉄敷設工事朝鮮人労働者の像

その人はつるはしを振り上げて、桜がおおかた散った4月半ば、神戸電鉄湊川駅と長田駅の間、車窓を流れる景色の中にほんの一瞬、見える姿。いつか近くまでと思いつつ、線路脇の擁壁の上から、もう何年だろう。草地にひっそりと、そのプロ

その人はつるはしを振り上げて、桜がおおかた散った4月半ば、神戸電鉄湊川駅と長田駅の間、車窓を流れる景色の中にほんの一瞬、見える姿。いつか近くまでと思いつつ、線路脇の擁壁の上から、もう何年だろう。草地にひっそりと、そのプロ

その人はつるはしを振り上げて、桜がおおかた散った4月半ば、神戸電鉄湊川駅と長田駅の間、車窓を流れる景色の中にほんの一瞬、見える姿。いつか近くまでと思いつつ、線路脇の擁壁の上から、もう何年だろう。草地にひっそりと、そのプロ

2018.9.23 田新市

¹ 兵庫朝鮮関係研究会：1983年、兵庫の在日朝鮮人史を研究するために金慶海、洪祥進、徐根植が設立。兵庫県における在日コリアンの歴史を調査研究し書籍等に記録に残すことをめざしている。会員の

思想、信仰、所属団体は問わない。月例の研究会を開き会報『兵朝研』を発行。著書に、『地下工場と朝鮮人強制連行』（1990）、『在日朝鮮人 90 年の軌跡—続・兵庫と朝鮮人—』（1993）、『近代の朝鮮と兵庫』（2003）、『兵庫の大震災と在日韓国・朝鮮人』（2009）、『在日韓国・朝鮮人の歴史と現在』

（2013）。他に『兵庫と朝鮮人—祖国解放 40 周年を記念して』（1985）、『釜山と朝鮮人強制連行』（1987）。金慶海、金英達以外の会員の著書に、鄭鴻永『歌劇の街のもうひとつの歴史—宝塚と朝鮮人』（1997）、徐根植『鉄路に響く鉄道工夫アリラン—山陰線工事と朝鮮人労働者』（2012）、高祐二『在日コリアンの戦後史—神戸の闇市を駆け抜けた文東建の見果てぬ夢』（2014）などがある。』『在日コリアン辞典』改訂版、2024 年発行予定、飛田雄一。

² 1971 年 1 月結成。植民地下朝鮮における抵抗運動を象徴する花の「むくげ（無窮花）」を会の名とする。朝鮮の言葉・歴史・文化を学ぶサークル。『むくげ通信』を隔月に発行。『むくげ愛唱歌集』などを自費出版している。<https://ksyc.jp/mukuge/> 参照。出版物に、金英達『GHQ 文書研究ガイド—在日朝鮮人教育問題—』、堀内稔『兵庫朝鮮人労働運動史—八・一五解放前—』、同『兵庫と朝鮮人—こぼれた歴史を拾って—』がある。

³ 兵庫県在日外国人教育研究協議会、「民族名(本名)で学べ、共に生活できる学校・社会をつくらう！」「Not For But With」を合い言葉に、1995 年 12 月から 1 年半の準備期間を経て、1997 年 4 月に産声を上げました。以来 24 年にわたり、真に国際的に開かれた多文化共生社会になるよう、保育所・幼稚園・学校での在日外国人教育と多文化共生教育を推進するネットワーク作りをめざして歩んできました。」 <https://kengaikyo.sakura.ne.jp/> 参照。

⁴ <https://ksyc.jp/mukuge/hida-hyogo-note.pdf> よりダウンロードできる。

⁵ 追悼する会の行事等については同会ホームページ <https://ksyc.jp/kd/> 参照。

⁶ 神戸港における戦時下朝鮮人・中国人強制連行を調査する会のホームページ <https://ksyc.jp/kobeport/> 参照。

⁷ コリア教育文化センターの詳細は、<https://www.korea-uriecc.org/> 参照。

⁸ 神戸学生青年センター、<https://www.ksyc.jp> 参照。出版物に、佐渡釜山・朝鮮人強制労働資料集編集委員会編『佐渡釜山・朝鮮人強制労働資料集』、竹内康人編著『戦時朝鮮人強制労働調査資料集 増補改訂版—連行先一覧・全国地図・死亡者名簿』、鄭鴻永著『歌劇の街のもうひとつの歴史—宝塚と朝鮮人』、朴慶植・張錠寿・梁永厚・姜在彦『体験で語る解放後の在日朝鮮人運動』、金英達・飛田雄一編『朝鮮人・中国人強制連行強制労働資料集』などがある。

⁹ ひょうご部落解放・人権研究所ホームページ、<http://blrhyg.org/> より。

¹⁰ 飛田執筆ものについては、前掲飛田『「兵庫のコリアン・朝鮮人・連合軍捕虜」ノート』で見ることができる。

¹¹ <https://ksyc.jp/sb/> 参照。